とたいきゅうじ
# 屠体給餌プロジェクト報告会

千葉市動物公園 Chiba Zoological Park　Academia animalium アカデミア・アニマリウム

## 「肉食の動物園動物がかかえるエサ問題」と「害獣問題の実態」を知り考える

**概要**

毛皮や骨のついた肉の給餌は、動物園の肉食動物本来の採食様式を発現できる給餌方法として有効とされている。一方、千葉県のみならず全国でたくさんの野生動物が害獣として駆除されているが、ほとんどが廃棄されている。**「動物たちの生活の質の向上」**と、**「千葉県が抱える害獣問題」**という異なる問題を解決するために、千葉市動物公園のライオンとハイエナを対象に千葉県内で駆除されたイノシシを給餌する「屠体給餌プロジェクト」を立ち上げ、理解促進とプロジェクトの進捗報告を目的として、令和4～5年度に全5日間の講座を実施した。今後も学術検証の進捗や連携パートナーの活動についての報告会を継続実施していく。

獣害問題と野生動物の廃棄問題を知る

捨てられている動物を利用する動物園の屠体給餌を知る

動物の命を無駄にしないために、今できることを考える

イノシシの肢をかじるライオン

**参加人数：487名**（ホール：277名、オンライン：210名）

実施日：令和4年11月6日（日）
令和5年 5月20日（土）・21日（日）、10月29日（日）、11月12日（日）
実施場所・方法：千葉市動物公園内 ホール・ライオン舎前、オンライン配信

**講座内容**

### 害獣問題の実態

駆除される野生動物が増えた理由の寸劇形式のガイドの実施。害獣による千葉市の農業被害、生活被害の実態の解説。

ライオン舎前でのガイド

### 屠体給餌の意義

屠体給餌とは、屠殺した大型動物を毛皮や骨などが付いた状態で飼育動物に与える給餌方法のこと。動物たちの生活の質の向上と、駆除される動物の利活用の二つの問題を同時に解決する方法として、千葉市動物公園では令和2年から実施。

ホールでの講座

### 駆除動物の利活用

千葉県で駆除された動物を使い、ジビエ肉や皮革製品を広める活動。

### 屠体給餌の学術研究

「屠体肉の栄養評価」や「屠体給餌によるライオンの行動変化」など。

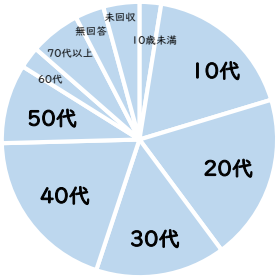
**講師・連携**

**■大学教員** 細谷忠嗣（日本大学）、井上英治（東邦大学）、**■学生** 東邦大学修士課程1年生、TCA東京ECO動物海洋専門学校学生、伴和幸（豊橋総合動植物公園）、**■千葉市内各局** 環境局、農政局、**■ジビエ加工業者** 小嶌栄・高山良治（ALSOK千葉株式会社 ジビエ工房茂原）、**■千葉県で駆除された動物の肉や皮を使って活動する方々** 原田祐介（猟師工房）、沖浩志（館山ジビエセンター/合同会社アルコ）、大阪谷未久（シシノメラボ/安房野生獣革ラボ）、辻榮亮（1008株式会社）

※敬称略

**効果**

**10～50代の幅広い年齢の方が参加！**



参加者の年齢

| 質問 | 講座前 | 講座後 | |
|---|---|---|---|
| 害獣駆除が必要だと「思う」「やや思う」 | 61% | 73% | 12ポイント増加！ |
| 屠体給餌が必要だと「思う」「やや思う」 | 47% | 58% | 11ポイント増加！ |

**受講者の声**

「屠体給餌や千葉の取り組みがよくわかった」「私自身、エサや獣害の問題について考え、日々の関心として考えていきたいと思います」「日常生活と動物園、野生生物とのつながりが感じられるとてもよいイベントでした」「皮製品は肉を食べれば出る皮の有効活用だと聞き、残酷なイメージから変わった」「応援します」「捨てられてしまう90%の動物の命を無駄にしないようになれば良いと思いました」「害獣を駆除する以外の方法を考えたい」「子どもが興味を持つきっかけとして良かった」

【令和5年10月20日・21日に実施したアンケートより】